

WHO 認定の鍼灸治療の適応症

鍼灸マッサージ しん治療院

※下記の表は、これらの疾患にしか効果が無いというものではなく、あくまで WHO による国際基準を提示したのみです。また、各症状に対する悪化の予防や緩和の目的による鍼灸施術に関わって行きやすくするために作成しました。

鍼灸の不応症には、がん、病原微生物による感染症、血管系の病気（脳出血、脳梗塞など）、心筋梗塞等急性の心疾患、手術を必要とする重い病気などがあげられます。

ただし、ここ最近ではがん治療による副作用や免疫力低下などの悪化予防や鎮痛剤では取り切れない痛みやだるさなどの軽減用途で、鍼灸治療が現代医療を補完する一手として用いられている事があります。

しかし、鍼灸治療だけで、がんを縮小させたり消失させたりすることはありません。だから、現代医学による精密検査を受けなければなりません。

《鍼灸治療による、がん患者さんへの治療対象となる症状》

- 痛みや息切れなどの身体症状の軽減。
- 心理的・精神的苦痛の軽減。
- 生活の質（QOL）全般の改善。
- 抗がん剤の副作用である吐気や嘔吐の軽減。
- 手術後の腸閉塞の予防。
- 乳がん治療の副作用である顔面紅潮・のぼせの治療

運動器系
テニス肘
頸椎炎
頸部筋の筋膜炎(肩こり、首や肩の痛み)
腱関節周囲炎(肩こり、肩の痛み)
関節リュウマチ
変形性膝関節症(膝が痛み、水が溜まる事もある)
関節炎
腱鞘炎
腰痛
外傷の後遺症(骨折、打撲、むち打ち、捻挫)

神経系
頭痛
片頭痛(数時間～数日にわたって続く、ズキズキする痛み)
緊張型頭痛(頭を締め付けられるような、ジーンとした痛み)
坐骨神経痛・腰痛
扁桃摘出後の痛み
術後の痛み
ヘルペス後神経痛(帯状疱疹の治癒後に起こる神経痛。顔面の痛みが多い)
三叉神経痛
痙攣
脳卒中後遺症
自律神経失調症
めまい
不眠
神経症
うつ病
ノイローゼ
ヒステリー
アルコール関連障害
薬物中毒

呼吸器系
急性扁桃炎・咽頭炎・喉頭炎
慢性副鼻腔炎(蓄膿症)
気管支喘息
気管支炎
風邪及びその予防

血管系
狭心症をともなう虚血性心疾患(心臓の筋肉に酸素が十分に供給されないことが原因で起こる心臓病)
高血圧
低血圧
不整脈
心臓神経症(心臓が異常がないのに、動悸や不整脈を強く感じる、不安障害の一種)
動悸
息切れ

消化器系
胆石症
胆石による疝痛
胆道回虫症
胆道ジスキネジー(胆道系に異常は無いのに、胆石症に似た腹痛等が起こる。心因性が多い)
胆嚢炎
胃腸病(胃炎、消化不良、胃下垂、胃酸過多、下痢、便秘、胃十二指腸潰瘍)
肝疾患(肝機能障害、肝炎)
痔疾患

泌尿器系など
腎結石による痛み
夜尿症
尿失禁
膀胱炎
尿道炎
性機能障害(男性の不妊症や勃起障害(ED)等をも含む)
腎炎
前立腺肥大
陰囊
尿閉(排尿困難が悪化して、尿が出なくなった状態)

産婦人科系
月経困難症
分娩の誘発
月経の異常
女性の不妊症

眼科疾患
近視
眼精疲労
結膜炎
疲れ目
かすみ目
ものもらい

代謝内分泌系疾患
肥満
バセドウ氏病
糖尿病
痛風
脚気
貧血生殖・泌尿器系疾患

婦人科疾患
更年期障害
乳腺炎
白帯下
生理痛
月経不順
冷え性
血の道
不妊

小児科疾患
小児神経症(夜泣き、かんむし、夜驚、消化不良、偏食、食欲不振、不眠等)
小児喘息
アレルギー性湿疹
耳下腺炎
夜尿症
虚弱体質の改善
耳鼻咽喉科疾患
中耳炎
耳鳴り
難聴
メニエル氏病
鼻出血
蓄膿
咽喉頭炎
扁桃炎
その他
白血球減少症(免疫の病気や薬の副作用等、様々な理由で白血球が減少する症状)
過敏性腸症候群(精神的なストレスで下痢や便秘、腹痛が起こる)